

東京クリニック

医薬品情報

TEL 03-5287-5532

Web <http://www.tokyo-clinic.jp>

Mail info@tokyo-clinic.jp

貯 法：冷所・遮光保存
使用期限：容器，外箱に表示の使用
期限内に使用すること

複合ビタミン剤

承認番号	(60AM)4105
薬価収載	1985年8月
販売開始	1985年8月
再評価結果	1985年7月

プレビタ®S注射液

Plevita S Injection

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤及び塩酸チアミンに対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1 組成

プレビタS注射液は1アンプル（管）5mL中次の成分を含む黄色～だいだい黄色澄明の水性注射液である。

塩酸チアミン	10mg
リン酸リボフラビナトリウム	6 355mg
（リボフラビンとして）	5mg）
アスコルビン酸	200mg

添加物としてプロピレングリコール50mg、アミノエチルスルホン酸20mg、クエン酸、pH調整剤を含有する。

2 製剤の性状

プレビタS注射液はアンプル入りの黄色～だいだい黄色澄明の水性注射液である。

pH：4.5～5.5

浸透圧比：2.1～2.3

【効能・効果】

本剤に含まれるビタミン類の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦など）。

効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

【用法・用量】

通常成人1日5～10mLを、糖液、電解質補液、生理食塩液あるいは総合アミノ酸注射液等に混じ、静脈内又は点滴静脈内注射する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1) 重大な副作用

ショック：ショック症状があらわれることがあるので、血圧降下、胸内苦悶、呼吸困難等があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	頻 度 不 明
過 敏 症 ^{注)}	発疹、痒痒感等
消 化 器	悪心・嘔吐等

注) このような場合には投与を中止すること。

2 臨床検査結果に及ぼす影響

- (1) 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある（アスコルビン酸含有のため）。
- (2) 各種の尿検査（潜血、ビリルビン、亜硝酸塩）・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある（アスコルビン酸含有のため）。
- (3) 尿を黄変させ、臨床検査値に影響を与えることがある（リン酸リボフラビナトリウム含有のため）。

3 適用上の注意

- (1) **アンプルカット時**：本剤にはアンプルカット時にガラス微小片混入の少ないクリーンカットアンプル（CCアンプル）を使用しているが、さらに安全に使用するため、従来どおりエタノール綿等で清拭することが望ましい。
- (2) **静脈内注射時**：静脈内投与により血管痛を起こすことがあるので、注射速度はできるだけ遅くすること。

【薬効薬理】

チアミン（ビタミンB₁）は、生体内でコカルボキシラーゼとなってα-ケト酸の脱炭酸反応、酸化脱炭酸反応、ケトール形成並びに転移反応を触媒する酵素の補酵素として作用する¹⁾。

リボフラビン（ビタミンB₂）は、生体内でFMN（リン酸リボフラビン）又はFAD（フラビン・アデニン・ジヌクレオチド）となって生理活性を示す。FMNやFADは補酵素として種々の酸化酵素や脱水素酵素などフラビン酵素（フラボプロテイン）を形成する²⁾。

アスコルビン酸（ビタミンC）は酸化還元をうけやすく、水素伝達系の一環として生体の酸化還元並びに細胞呼吸に重要な役割を果たしているといわれている。ビタミンCの生理作用のうち最も著明なものは、結合組織ことにコラーゲンの生成と維持に必要な点であり、その欠乏症は壊血病として知られている。さらにビタミンCには副腎防禦作用やメラニン生成抑制作用、ヘム蛋白保護作用がある³⁾。

【包 装】

5 mL 50管

【主要文献及び文献請求先】

- 1) 島園順雄 ほか、臨床薬理学大系、第13巻、85（1978）
- 2) 島園順雄 ほか、臨床薬理学大系、第13巻、109（1978）
- 3) 島園順雄 ほか、臨床薬理学大系、第13巻、234（1978）

【文献請求先】扶桑薬品工業株式会社 研究開発センター 医薬情報部門
〒536-8523 大阪市城東区森之宮2丁目3番30号



製造発売元
扶桑薬品工業株式会社

大阪市中央区道修町1丁目7番10号